

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

【被災から1年。南三陸くさんさカフェ>の応援に行きました】

東日本大震災から1年が過ぎ、被災地ではさまざまな「前向き」なネットワークができています。5月20日、21日の2日間宮城南三陸町の共同食堂くさんさカフェ>への応援に行きました。

昨年7月に、日本フィル金管五重奏のメンバーが仙台フィルの木管メンバーとともに、南三陸町志津川中学校と志津川高校のブラスバンドのクリニックと合同演奏に行っています。多くの方々が蒸し暑い体育館の避難所で暮らしていて、雑然とした環境のなかでも子どもたちが一緒に音を出す喜びを身体中で表現していたのを思い出します。この志津川高校避難所で運営スタッフとして、炊き出し等を行ってきたメンバーが中心となり、避難所が閉鎖になったあと6ヶ月後に、「みんなが気楽に集まれる場所」とを、共同食堂くさんさカフェ>をオープンしました。

被災所から仮設住宅へと生活に移し、更に地域コミュニティが分散する事となった被災地において、復興への足掛け、また地域住民の拠り所となるべく共同食堂は、

- ★被災者住民自らが運営していきます。
- ★食の提供とともにコミュニティセンターの役割をめざします。
- ★社会的弱者・マイノリティーに開かれた場所をつくります。
- ★炊きだし、仮設住宅訪問など救援・復興ボランティアの拠り所としています。

★地域の協同した生活づくりを支援していきます。

★第二、第三の「共同食堂」が被災地各地に広がっていくことをめざします。という目標を掲げ出発しました。

今回の訪問者は弦楽四重奏、ヴァイオリン西村優子、遠藤直子、ヴィオラ菊田秋一、チェロ中務幸彦の4人のメンバーです。19日に定期演奏会を終えたその足で東北新幹線に乗り、くりこま高原下車ののち、南三陸へ向かいました。闇の中の道を走り、ホテルに到着。

翌朝は10時に最初の会場の志津川中学のホールで綿密なリハーサル。高台にある学校の校庭からの風景は昨年から全く変わっていません。瓦礫が整理され、家並みは土台を残すのみとなり、人影はみあたりません。志津川町は町民18,000人のうち、1,000人以上の方が死亡・行方不明、4,000人が家を流されました。校庭の半分は仮設住宅となり、元気のいい女子たちがソフトボールの試合をしていました。

昼食はくさんさカフェ>へ。外装はプレハブづくりですが、内部はシックで暖かい雰囲気です。4時間かけていいにつくるのがご自慢のかつカレーも日替わり定食も500円の廉価でした。お昼時でたくさんの人が昼食におとすれ、外のウッドデッキも満席といった状況でした。

午後2時からホールでコンサート。志津川中学ブラスバンド部部員や高校の部員、運動場内の仮設住宅からの参加者も加え、約100人の方々が、バッハ：主よ、人の望みの喜びよ、ヴィヴァルディ：「春」、サン＝サーンス：「白鳥」、池辺晋一郎、吉川和夫、寺嶋陸也、萩京子、林光：さくら変奏曲、モーツァルト：アイネ・クライネ・ナハト・ムジークなどに耳を傾けました。学校は隣の戸倉中学と統合されたばかりで2つの

中学が併存しているということでしたが、昨年と比べると校内がきれいになり、落ち着いた雰囲気になっていました。

夕方5時から、南三陸ホテル観洋のロビーでコンサート。海を見下ろす高台にあるこのホテルは1300人を収容できる巨大なホテルで、2Fまでを津波でさらわれながらも、震災後は800人の方がこのホテルに「住んでいました」。私たちが滞在中は「復興支援」のタイトルの旅行団やボランティアグループ、業者などが大勢宿泊していました。



くさんさカフェ>のみなさん



(追悼のモニュメントとなった防災センター)



(校庭の半分は仮設住宅、ソフト部の練習)



(志津川中学校校内の横断幕)



(志津川中学校での弦楽四重奏)